

こことのふれあいを何よりも大切に

Shinsei
2018 Vol. 26

2018年5月23日 発行

医療法人 厚生会 道ノ尾病院「新星」shinsei 編集部

〒852-8055 長崎市虹が丘町1番1号

TEL 095-856-1111 FAX 095-856-4755

新星

題字：松本 青美子



CONTENTS

- 2 精神科医副院長のおはなし「親ごころ」
- 3 当院における認知症治療の取り組み
- 4 第30回アルコール関連問題学会長崎大会の報告
- 5 部活動紹介／病棟紹介⑨
- 6 第70回九州精神神経学会・第63回九州精神医療学会 宮崎にて
第37回食事療養学会に参加して
- 7 長崎県災害派遣医療チーム「D.P.A.T」の研修を終えて

基本理念 患者第一主義

基本方針

- 挨拶と笑顔をもって皆様（患者・家族）に接します
- 疾病や治療に対して十分な説明と同意に基づき、患者本位の医療を提供します
- 患者の権利を認識し、尊重します
- 地域における責務を認識し、開かれた病院を目指します
- 職員研修を行い、常に研鑽に努めます
- 健全な病院経営に努めます
- 患者の社会復帰に努めます

親 ご こ ろ

精神科医
副院長 立木 均



桜の頃になり、入学式に連れ立つ親子を見るのは、なんとも微笑ましいものです。やがて子どもも成長し、一人前になっていく・・・はずなのですが、世の中にはいろんな病気や障害があって、長い間それと向き会わなければならない事もあります。そのために、自分で食べていく力を持てなかつた子どもの将来を、経済的に困りはしないか、悪い人に騙されはしないかと、誰よりも案するのは親なのでしょう。

「この子より元気で長生きできる薬はありませんかねえ。」とお母さんはため息をつきます。「いいんですよ、私が死ぬ時は棺おけに入れて連れて行くんだから。」とお父さんは笑ってみせます。それはとてもかなわない親の望みです。そして、もしかなったとしてもそれが幸せだとは到底思えないの

です。

一方では子どもたちも、自立するだけの力がないことを知っていますから、心配なのは当たり前です。「両親が死んじゃったら、どこに行けばいいんですか。」「兄ちゃんはいるけど、結婚してるから・・・」なるほどそうです。親の次にと期待をよせていた兄弟たちはその頃はすでに守る家族もあって、そんなに期待されても気の毒です。

気の毒といえば先日こんな事故がありました。若い方でしたが、まだ小さな頃に心の病を患い、15年間自宅の離れで療養して寒さと栄養不良で亡くなってしまったというものです。ご両親はきっと、他人様に迷惑をかけてはならない、自分が生んだ子だからずっと責任を持たなきゃいけない、自分たちよりよく面倒を見てくれるところなんてない、とお考えだったと思います。一度は病院に足を運ばれたそうですが、あと何回か病院や保健所、介護支援相談所や市役所、そして町内会などを訪ねてくださったなら、子どもの力になってくれる人たちと出会い、そして少しずつ家族に近い存在となつたはずです。もちろん彼らは、ご両親と同じ対応をしてくれるわけではありませんが、それでも自分で抱えずに、ご縁に沿って会う機会を作つてもらいたかったと悔やまれます。

だいたい子どもが巣立つときには、行き先の寮やアパートの管理人さんに頼んだり、結婚して新たな家族に任せますよね。そうやって、かわいい子どもを他の人に任せる度量も必要なのだと感じます。でも、そんなことはもう経験済みですよね。初めて子どもを保育園の先生に預けた日を思い出し、いずれは空の上に居ようとも「ただいまー、あー疲れた。」と自分の元に帰つて来るのを待ちましょう。

「親おもう、心にまさる親ごころ・・・」いつも心配ばかりさせられて、なんとなく損な感じ・・・悔しいけれど、どうやらそれが正しい親ごころのようです。

当院における認知症診療の取り組み (内科医 副院長 芹田 巧)

認知症高齢者数は、2017年には560万人に達し、2050年には65才以上の4人に1人が認知症になると言われています。

当院でも本格的に認知症診療に取り組むべく8年前から認知症専門外来を開設し、認知症対応病棟も120床備え、現在180床に増床すべく取組中です。

認知症の好発年齢は70~80才であり、身体科の合併症も多く、この点から当院では竹村、木場、北村、芹田の内科医が中心となり認知症治療を行っています。2017年では認知症による新患174名、外来通院421名、入院451名と増加しています。

地域への働きかけも地道に行っており、長崎北病院、長崎北徳洲会病院、近隣かかりつけ医、地域包括支援センター、ケアマネなどを対象とした、当院主催の「北部地区認知症地域連携会議」を定期的に開催し、すでに7回目となりました。また当院での認知症に対する取り組みも認められ、長崎市のみならず、九州~関東地区まで認知症関連の講演依頼も来るようになりました。

地域住民を対象とした市民公開講座も虹かふえスタッフと協力して定期的に開催し、100人を超す地域住民の方々に参加していただいています。5月12日には第3回目の市民公開講座を開催致しました。



講演中の芹田巧副院長



2017年11月24日 認知症学会

学会活動も行っており2014年から認知症学会には毎年演題を発表しています。昨年は、認知症と睡眠に関する演題を薬剤部から睡眠研究会でも発表致しました。

今後も日々研鑽を心がけ、少しでも認知症診療にフィードバックできるようにスタッフ一同頑張りたいと思います。

第30回

テーマ「広げよう！
当院のスタッフがポスター発表をしま



第1分科会 「基礎講座」

依存症は否認の病気と言われています。当事者が回復の一歩を踏み出すためには、支援者が否認と対決ではなく、当事者の話に耳を傾け、適度に共感し、抵抗があっても逆らわずに一緒に進むことが大切であることを学ぶことができました。回復施設代表者の話で、近年医師からの処方薬がきっかけになって、処方量以上にまとめて飲んだり、多種多量の薬を求めて医師をハシゴしたりあるいは違法に入手したりする処方薬依存に苦しんでいる人が多いということでした。また、処方薬依存で命を落とすケースも多いという話もありました。今回学会に参加させて頂き学んだことを今後の業務に役立てたいと思います。

看護師 丸山 隆行



第3分科会

「地域と医療との連携について考える」

今回、第3分科会に参加させていただきました。内容はアディクション関連問題にとどまらず、他の精神科病院や行政、司法分野で取り組まれていることを学ぶことができました。行政や他機関との連携はもちろんのこと、他病院のPSWやMSWとのつながりの重要性についても改めて感じた機会となりました。長崎子ども・女性・障害者支援センターでのCRAFT研修などについて、アディクション関連問題を抱える家族へ紹介していただかなければと思います。今回の学びを今後の業務につなげていけたらと思っております。今回は参加させていただき、ありがとうございました。

精神保健福祉士 濱崎 まりな

第2分科会 「発達障害と依存症」

発達障害の方のエピソードを伺うと、幼少期から叱責されることが多い、強みになる部分があるにもかかわらず自己肯定感や自己効力感が損なわれている方が多い印象を受けます。ストレス回避のためにアルコールを使用したり、自分自身を認めてくれる場所を求めてインターネットやゲームに没頭するなど、依存が本人なりの対処である場合もあるというお話を聞いて、本人がこれまで感じてきた生き辛さをまずは理解しようとする姿勢が必要だと感じました。

また、「人と繋がることがアディクションからの回復」というお話を受けて、治療に繋がらない場合でも、“求めすぎず” “いつでも繋がれるから待ってるよ”という待ちの姿勢で関わりたいと思います。

臨床心理士 鎌賀 由利子

第4分科会

「コメディカルスタッフの 新たな依存症への関わり」

第4分科会では、看護師をはじめ作業療法士や保護観察官、心理士など他職種の話を聞くことができました。認知行動療法や動機づけ面接が効果的であることを改めて実感しました。

また治療には家族の協力が必要であり、その家族のニーズにも対応し、サポートが必要であることを学びました。今回の学びをARPIに生かし、アルコール依存症の患者様に関わっていきたいと思います。

看護師 小森 美佐子

アルコール関連問題学会 長崎大会

依存症の回復と支援」 — モノからコトへの依存症対策 —

した また、運営のお手伝いも兼ねて学会参加し各分科会ごとに参加スタッフからの報告をさせて頂きます。

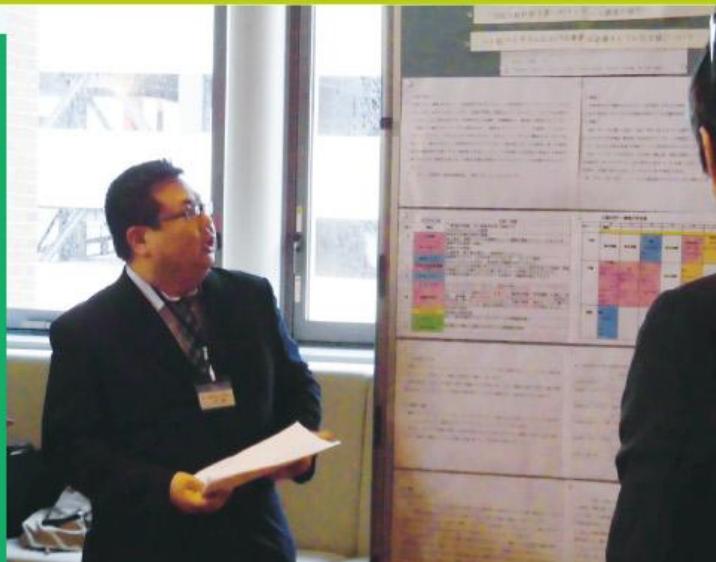
ポスター発表

「当院 ARP 修了者へのアンケート調査の報告～入院プログラムおよび当事者が必要としている支援について」

当院で行っているARPの週間スケジュールの説明を行った後、アンケート調査の結果を報告しました。アンケート調査では①スマーリーティング、②朝礼、③金曜日の学習会の順で評価が高い結果でした。また、入院回数や年齢別で比較すると当事者の置かれた状況によって求めている支援が異なることを改めて知ることが出来ました。多職種チームで連携した支援を心がけ、今回の学びを今後の支援に活かしていきたいと思います。



看護師 岩永 力
山村 俊郎



市民公開講座

『依存症をもっと理解しよう』-なぜ、ひとは、ギャンブルにはまるのか?-

行政、医療、民間のそれぞれのお立場からお三方のシンポジストが『依存症』を取り巻く現状や課題などについて講演されました。

依存症支援の要である行政からは、長崎県の現状を実際の数字で示しながら、ギャンブル依存症の相談が増えていること、これまでの専門施設への「つなぎ」役としての立場から『CRAFT』を一つのツールとして家族の支援を新たに模索し始めたことなどお話がありました。

医療からは、長年長崎の依存症治療を牽引してきた西脇健三郎先生がお話されていました。依存症と今注目の働き方改革を絡めた斬新なお話でした。

民間からは、NPO法人「ギャンブル依存症問題を考える会」の代表田中さんよりご家族であり支援者の立場としてギャンブル依存症の厳しい現実と課題を熱く語られました。

依存症支援には、それぞれの立場を理解しながらの地域ぐるみの連携と協力が必要だと実感しました。

臨床心理 蒲池 美保

実行委員として参加して

今回、初めて学会実行委員として九州アルコール関連問題学会長崎大会に参加させて頂きました。

他機関とのネットワークが作れたことや、今まで実行委員を務めたこともなく他機関スタッフとの交流も少ない中、今回は交流を深める良い体験となりました。

今回、多くのスタッフを学会に参加させて頂きました。この場を借りて病院スタッフにお礼を申し上げます。また、皆多くのことを学ぶことができ、今後の治療に活かしていきたいと思います。

看護師 本多 智
医 師 福嶋 翔

連載8回目はA-4病棟のご紹介です

部署紹介コーナー

スタッフ紹介

看護師長：1名 看護主任：1名
看護スタッフ：14名
看護アシスタント：5名
病床：60床 1日平均患者数：60名（3月末）

部署の特徴

男性の開放放療養病棟で長期入院にわたり、治療や療養がより必要な患者が入院されており社会復帰を目的に積極的にカンファレンスを実施し継続した退院支援を行っています。



○スタッフの資格

SST初級認定 SST中級認定 小型船舶1級 潜水士
大型2輪 自動車（普通、大型）
中型2輪 ケアマネージャー

○スタッフの趣味

魚釣り ウォーキング パチンコ 韓流ドラマ 旅行
手芸 ドライブ 食べ歩き

○部署の研究・業績

H27年 長期入院患者に対する退院支援
(看護師 内間安幸)

部活動紹介 コーラス部



今回は、コーラス部の活動を取材させていただきました。現在道ノ尾病院コーラス部には12名の職員が所属しています。職種は、看護部・施設課・薬局・PSW・心理・事務と様々です。月に二回、月曜日の12:40~13:20に活動をされています。講師には、指導者に中澤伸元先生、ピアノ演奏に大塚裕子先生を招いており、活動では、みんなで歌いやすく気に入った曲を選曲し、練習しているそうです。年に1回の忘年会でお披露目があり、その日に向けて毎回一生懸命練習されています。活動の様子を見学させていただくと、爽やかな歌声が部屋を包み込み、聞いているだけで心が弾む素敵な空間でした。

活動中にもかかわらず快く取材を受けてくださいました
コーラス部の皆様、本当にありがとうございました！



第70回 九州精神神経学会 / 第63回九州精神医療学会 2017 IN宮崎



平成30年1月25日～26日に第63回九州精神医療学会が宮崎で開催され、道ノ尾病院からも5演題の発表をしました。発表者は院内研究発表を終えて、自信をつけての参加となりました。

ポスター発表では、演者との距離も近くステージ発表とは違う活気のなか、終了後に多くの質疑があつたり参考にしたいとの希望があり、研究の成果を実感できました。

他の医療機関の発表では、「認知症」「アルコール依存症」「災害後の対応」など多岐に渡る取り組みを聞く中、新たな発見と自分達の取り組みに対する再確認をする事で更なる自信に繋がる機会となりました。

発表演題

1. 「仕事に就きたい」

デイケアメンバーの希望を叶える支援過程
～医療と福祉の協働～

作業療法士 橋本 里奈

2. 行動制限最小化に向けた意識づくり

～「思いっきり」の大切さを実感して～

看護師 初柴 綾

3. 隔離解除に向けた評価基準に対する意識調査

～評価シートを用いて～

看護師 山田 剛

4. 異食の為行動制限のある患者の看護

～イレウスを繰り返す患者への援助を通して～

看護師 田川 美穂

5. 当院における腰痛罹患率の疫学調査

～骨粗鬆症における腰痛の年代別、職業別の比較～

看護師 平 佳苗

第37回 食事療法学会へ参加



期間：平成30年3月3日～平成30年3月4日



場所：沖縄県那覇市パシフィックホテル沖縄



下記の演題で、ポスター発表させて頂きました。

【トロミ状流動食による胃瘻栄養1日2回投与の安全性と有用性】

この学会に参加させて頂き、平成30年の診療報酬改訂に伴う、これからの中養管理、摂食嚥下障害について、地域在宅栄養について、給食管理について、クックチルシステムの調理工程など、多岐にわたり学ぶことができました。今回学んできたことを現場にも生かしていきたいと思います。



長崎県災害派遣医療チーム(DPAT)研修会

DPATとは、「災害派遣医療チーム」の略称です。平成28年から長崎県にも設置され、全国的にも体制を整備しています。

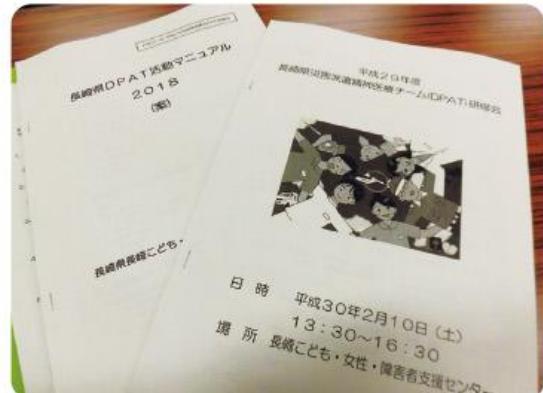
2月10日（土）、大規模災害時の精神保健福祉医療活動の指揮・調整と具体的なチーム活動方法等を理解することにより、DPATの質の維持および向上を図ることを目的として、長崎こども・女性・障害者支援センターで研修会が開催されました。

当院からは事務長、看護師、心理士、精神保健福祉士の4名にて参加させていただきました。研修会は①「長崎県DPAT体制について」、②「災害ステージとDPAT活動について」、③「被災者のこころの問題への対応について」、④「過去の災害派遣事例から学ぶ」といった四部構成となっており、各々に内容の理解や共感を深めることができました。

医療機関、行政、福祉サービス事業所など、多数の方が参加しておられ、皆さんの熱心な姿勢が会場内の雰囲気から感じられました。

DPATの構成員・チーム組などは今後検討されていくとのことです。

(精神保健福祉士 山田裕介)



道ノ尾病院は V・ファーレン長崎を応援しています

©2010 VVN



医療法人厚生会

- 道ノ尾病院 ○虹が丘病院
- 宿泊型自立訓練事業所 ふれあい
- 就労継続支援B型・就労移行 ワークステーションかいこう
- 訪問看護ステーション すみ香
- ヘルパーステーション にじいろ
- 相談支援事業所 にじいろ ○居宅支援事業所 にじいろ
- みちのおメンタルクリニック ○れいんぼうハウス滑石

社会福祉法人新生会

- 特別養護老人ホーム 望星荘
- 障害者支援施設 虹が丘学園



モバイルの方



スマートフォンの方

【医療法人厚生会 道ノ尾病院ホームページ】

<http://www.michinoo.or.jp>

道ノ尾病院

検索

パソコン・スマートフォン向け

道ノ尾病院 新着情報通知のお知らせ

道ノ尾病院HP上に出るポップアップを通知許可していただくと以降、新着更新情報をプッシュ通知で受け取ることが出来ます！

パソコンやAndroid端末はアプリ不要で直接プッシュ通知を受け取ることができます。

* iOS端末(iPhone・iPad)は

「みんなのお知らせ」アプリをインストールし、お知らせ通知を許可するだけで以降、直接プッシュ通知を受け取ることができます。

